

久米島仲里村真謝方言の助詞・助動詞

野原, 三義

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言

(巻 / Volume)

9

(開始ページ / Start Page)

30

(終了ページ / End Page)

50

(発行年 / Year)

1985-03-15

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012720>

久米島仲里村真謝方言の助詞・助動詞

野原三義

前に「久米島方言の助詞」で真謝・上江洲・鳥島の三地点の助詞の概観を試みた。先稿と重複する部分もあるが、今回は真謝を中心にすえて、より詳しく記述する。

真謝方言を教えてくださいくださった方は新垣新一（1907年生）、宇久本カメ（1912年生）、与座カマド（1905年生）、平田美智（1922年生）、平田カマルー（1894年生）の五氏である。調査は1980年8月から9月にかけて行った。

助詞

I 格助詞

I-1, ga

(a) 主格に立つ場合

ʔamma:ga ndʒi kutfantʃi ʔaitag
母さんが行って来いと言っていた
ja:ga ʔaihe: jukutfɛ: ʔaraggaja:
お前が言うのはうそではあらぬかな
ʔure: mutʃikahanu wanga: wakaransa:
それは 難しくて 私がは 分からないよ
taro:ga suçɛ: tʃa: wassa:nu ʃi:jo:jasa
太郎が するのはいつも悪い 仕方だ
natʃibusu:ga ndʒititʃo:ti otitʃanna:
泣き虫が出ていて喧嘩して来たか
maga:ga tattʃo:ŋ
大きいのが立っている
maga:ga nato:ŋ
大きいのがなっている
(b) 連体格の場合

taro:ga ʔuja 太郎が 親
kamaru:ga kwa: カマルーが 子
mo:ʃi:ga sa:dʒi モーシーが 手拭
ʔariga muŋ あれが 物
ʔariga tʃinu あれが 着物
ʔariga ujaja kune:rakara jarontʃo:ha
あれが 親は この間から 病気だそうだ
mittʃaiga je:ni taŋgaraga tutanu hadʒiro:
三人が うちの 誰かが 取った はずぞ
ju:tʃiga mi:ja a:nu hadʒijasa
四つが 一杯は ある はずだ
titʃaga ʔuttu ʃi:dʒa
一歳が 弟 兄
ʔariga na:kani ʔittʃo:he:
あれが 中に 入っているよ
ʔuriga na:kani ʔittʃo:nu ʔaranna
それが 中に 入っている だろう
nu:ga na:kaga 何が 中か
〈たったそれだけの〉というような意味の場合
çakujenga muŋ ko:ti ko:tantsantsi ʔajuha
百円が 物 買って 買ったと 言うよ
同種の名詞に挟まれる場合
me:ga me:nitʃi 毎が 毎日
muttuga muttu 全部が 全部
(c) 動作の目標
ʔaʃibi:ga ʔitʃuŋ 遊びに 行く
midʒi kumi:ga ʔitʃanna
水 汲みに 行かんか

haru $\begin{cases} \text{ni} \\ \text{kati} \end{cases}$ mmu Φ uiga re:ru
畑に いも 堀りにである

I - 2, nu

1, 連体修飾

(a) 所有・所属

ki:nu ha 木の葉
tataminu mimi 畳のへり
ha:inu mimi 針の孔
na:binu fitfi 鍋の底
hafirinu sag 戸の棧
çi:nu naka 火の中
ja:nu kufi: 家の後
tunainu Φ u: 隣のじいさん (平民)
tunainu tamme: κ κ (士族)
me:nu mitunra 向いの夫婦
ket:tunainu tšu 近くの人
ʔu:minu mo: 海の藻

(b) 状態

kutfinu mi: 口の一杯
wi:nu tšunutfa: 上の人達
su:džinu ka:dži 祝のたびごと
ja:nu kardži ka:dži 家の数数(家毎に)

(c) 名詞+nu+複数の接尾語で複数を表す。

dufinu tfa: 友の達(友達)
ʔitšukunu tfa: 従兄弟の達(いとこ達)、

(d) 〈～という〉ほどの意

tunatfinu fima 渡名喜の島
ʔaguninu fima 栗国の島
kiramanu fima 慶良間の島

(e) 詠嘆的

kinu:nu ne:nu ʔuturuha atanu kuto:ja:
昨日の地震の恐ろしかったことよ
gkafinu mmunu ma:haatanu kuto:ja:

昔の いもの おいしかった ことよ
(f) nuの前後の単語の内容が同じ

wa: ujanu mo:fi:ga tse:ŋ
我 親の モーシーが してある

dufinu nio:ga ʔajutaŋ
友の ニオーが 言っていた

(g) 開始

amato:çiga o:žunu hadžimai jasa
ぶざけてるが 喧嘩の 始まり だよ

(h) ～の後は

no:imunnu a:tuja so:džinu aŋ
縫いものの 後は 掃除が ある
saki nu:dinu ʔato: ʔotetšug
酒 飲んでの 後は 喧嘩している
tamunu watikaranu ʔato: nu: sugaja
薪 割ってからの 後は 何 するかね
(i) 姓や代名詞について〈の家の(者)〉

という意を表す。

nakatšurutuntfinu sannaj
ナカツル殿内の 三男
are: çidžanu re:gaja: あれは 比嘉のかな
amanu re:gaja: 向うの かな

(j) 歳に関する語について〈～の時の〉
という意を表す。

ikutfinu tutfinu kwa:ga
幾つの ときの 子か
hatatfinu tutfinu kwa: jenro:
二十歳の ときの 子 だよ

(k) 地名やそれを尋ねる語について出身
を表す。〈～の出身の〉の意。

jambaran tšu: 山原の人
gufitfa:nu tšu: 具志川の人
jamatun tšu: ヤマトの人
man tfuga どの人か

上記のようにnuはnに弱まることがある。

(1) 〈～と同じくらい〉の意

jan taki ʔa:ha 家の 丈 あるよ

2. 連用修飾

主語や対象を示す

watanu jamiḡ 腹の 痛い

ti:nu dariti 手の だれて

tudʒinu tʂug 妻の 来る

takinu takahaḡ 丈が 高い

mununu nixtoḡ 物が 煮えている

subanu tʂunu kumaig 側の 人の 困る

rampatʂija:nu kwa:nu ʧisa (ʔ)u:ti

散髪屋の 子の 足 折って

ʔinununte: ware:gaja: 犬のも 笑うかな

tʂa:nu ʧissanu numarag

茶の うすくて 飲めない

tʂa:nu ko:hanu numarag

茶の 濃くて 飲めない

nindʒi ʧuriti nuʧurunu ijuʧiḡ wakarag

眠り狂れて 盗人の 入るのも 分からん

〈～のくせに〉ほどの意

warabinu ʔuʧutʂunu munui tʂitʂuntʂitʂi sug

子供の 大人の 物言い 聞こうとする

ʔunagunutʂo: najunumunnu ʔukiganu

naranna:

女のさえ、出来るのに 男の出来ないか

助詞を介さずに所有・所属を表す場合

wa: mun 〈我 物〉。wa: sumutʂi 〈我 書物〉。

wa: ja: 〈我 家〉。jaru: gusanu 〈貴方杖〉。

wa: tʂira tuḡkete: mi:mi: sutag 〈我 顔

見見 した〉。itta: ʂima: ma:ga 〈君ら 村

は どこか〉

当方言には共通語の「ヲ」に当たる助詞はないので、次のように助詞を介さずに目的を表す。

ume:ʂi tʂukuig 〈箸 作る〉。saki numig

〈酒 飲む〉。mmu kwe: 〈いも 食え〉。

tʂa: numiba 〈茶 飲め〉。tabaku ʧukiba

〈煙草 吹け〉

I-3, katʂi

(a) 目標・場所

na:hakatʂi ʔitʂug 那覇へ 行く

jamatukatʂi ʔitʂug ヤマトへ 行く

ma:kukatʂi ndʒag 宮古へ 行った

dʒimakatʂi itʂunna 儀間へ 行くか

ʧitʂigwatʂi so:gwatʂe: ja:katʂi ku:jo:

盆 正月は 家に 来いよ

ʔamakatʂi nagijug 向うに 投げる

harukatʂi itʂug 畑に 行く

ʂigutukatʂi ndʒag 仕事に 行った

tuggwe: katamiti ma:katʂiga

鋏 かついで どこへか

isudʒotig kumakatʂi ku:

急いでいても ここへ 来い

到着点

nakadzatosom madʒakatʂi ʔitʂug

仲里村 真謝へ 行く

(b) 方法

mitʂikatʂi wakiri 三つに 分けろ

1-4, kara

(a) 空間・時間の出発点

ʔamakara tʂu:ʧe: taruga

向うから 来るのは 誰か

ʔamakara tʂunu tʂug

向うから 人の 来る

tumitikara jasanrimari hataratʂug

朝から 晩まで 働く

tumitikara ʔabijatʂetʂug

朝っぱらから 騒いでいる

ʔatukara tsu:kutu satʃi nato:riba
後から 来るから 先 になっておれ
ha:kukara 早くから
tu:kukara 遠くから
ʔunu çesakara そんなに 早くから
ku:sa aru tutʃikara 小さい 時から

(b) 物事の順序の初め

fijikara kamiŋ 肉から 食べる
satʃo:ru hanakara tuti kuriba
咲いている 花から 取って くれ

(c) 手段・方法

utʃina:katʃija nu:kara itʃuga
沖縄へは 何から 行くか
utʃina:katʃija Φunikararu itsuru
沖縄へは 船からぞ 行く
jambaruʃiŋkara tamunu mutʃi tʃe:ha
山原船から 薪 持って 来てあるよ
(d) 動作が行われていることの確認

ha:ja mitʃikara attʃo:taha
ばあさんは 道から 歩いていたよ
tamme:ja ha:makara attʃo:taŋ
じいさんは 浜から 歩いていた

(e) ~の中を

ti:rakara ʔattʃi:ne: tʃimburu jaminro:
太陽から 歩くと 頭 痛いぞ

(f) ~の部分から

fije: ʔanradʃiʃikara ʔuriba
肉は 油肉から 売れ

(g) ~を経由して, ~を通して

udʃiʃiranu ma:karagara itʃura wakarag
土地不案内で どこから 行くのか 分から
ない

1-5, tʃi

(a) 手段・材料・行為者などを表す

ʔabi:gwitʃi sugu wakajutaŋ
呼び声で すぐ 分かりよった
ʔabi:gwitʃiru wakajutaru
呼び声でぞ 分かりよった
murʃdzinakutʃi ʔanra:gi: jatʃeŋ
小麦粉で てんぼら あげてある

rakitʃi ha:ʃi tʃukuteŋ
竹で 箸 作ってある

jatʃi ju: tudʃikiri
お前で よく 注意せよ

Φuritʃi katʃuŋ 筆で 書く

(b) 原因・理由

tʃiburu warijamitʃi ʔaʃibiru tʃonro:
頭 割れ痛みして 休んで いるんだよ

(c) 動作の行われる場合の状態

urusatʃi karag 皆で 食べた
urusatʃi joti tʃaŋ 皆で 喧嘩して来た

(d) 期限・限度・範囲などを表す

kuri ja:ja tʃutʃitʃitʃi tʃukute:ha
この 家は 一カ月で 作ってあるよ
mitʃitʃitʃe: nairu suru
三カ月では 出来ぞ する
gunitʃitʃe: nairu suru
五日では 出来ぞ する

助詞tʃiはʔute: ʃi:ʃi: tʃi 〈折ったりして〉
などと用いられる動詞接続形tʃiの転成した
ものである。

動詞ug 〈居る〉の接続形uti 〈居て〉から
転成して出来た場所を表すutiはamauti 〈向
うで〉, jakubauti 〈役場で〉, ja:uti 〈家で〉
などと用いられる。

mitʃijoti itʃataŋ 〈道で 会った〉のjoti
も居るに関する形の転成したものであろう。

I-6, nakai · ŋkai

(a) 場所

ja:nakai ?unna 家に いるか
 ja:nakai menfenna 家に いらっしゃるか
 kumanakai ?ag ここに ある
 hatakinakai jafe: witenna
 畑に 野菜 植えてあるか
 hatakinakai sani matfenna
 畑に 種 まいてあるか

(b) 状態

mitfinakai tfunu nintog
 道に 人の 寝ている

(c) 対象

ja:nakai nara:Φug お前に 教える
 tfujukai kutag 人に やった
 tfujukai turatfag 人に やった

(d) 動作主を示す

su:nakai sugurattag 父に 殴られた

(e) 比較の基準

?uri kwa:ja ujanakai ju: nitfo:ŋ
 この 子は 親に よく 似ている
 nakaiは男性の話者によく現れた。文例によっ
 ては今はniと言うが昔はnakaiと言ったとの
 ことである。

I-7, ni

(a) 場所

suini atanu hanafi:
 首里に あった 話
 ha:mani ?afibi:ga ?itsug
 浜に 遊びに 行く
 ?amani maja: $\left\{ \begin{array}{l} nu \\ ga \end{array} \right. ?ug$
 向うに 猫が いる
 gamani firog 洞穴に 住んでいる
 hatakini ja:se: tsukuteg
 畑に 野菜 作ってある

mmani ?iriba そこに 坐れ

na:hani ?ataru hanafi:
 那覇に あった 話

(b) 状態

mitfjini ninto:ha 道に 寝ているよ

(c) 対象

ja:ni nara:Φuha お前に 教えるよ
 ?arini kutag あれに くれた
 mi:ni mintfjibuna: ?ittsog
 目に ごみ 入っている
 mi:ni mi:bu ndgitog
 目に ものもらい 出ている

ha:ku tfu:fjini kunro:

早く 来るのに やるよ

Φunini nujuŋ 船に 乗る

(d) 動作主を示す

tamme:ni harakusarirarinro:

じいさんに 怒られるぞ

inuni ku:rattag 犬に かまれた

(e) 比較の基準

kuri kwa:ja ?ujani nitfo:ha
 この 子は 親に 似ているよ
 watta: jaja gakkoni tfikahag
 我ら 家は 学校に 近い

warabintfa:ni wakajunganen nara:çi
 子供さに 分かるように 教えろ

(f) 方法

mitfjini wakijug 三つに 分ける

(g) 時間

rokudzini ukitag 六時に 起きた
 gumaha aini kuruhattag
 小さい時に 殴られた
 ninto:ru utfjini ndzi urag
 寝ている 間に行っていない
 ja:ninu saggwatfjini nibitfi sug

来年の 三月に 結婚 する
 su:dʒinija nu: tʃiŋ tʃiʃi itʃuga
 お祝には 何 着物 着て 行くか
 amini nr̥iti ja:katʃi tʃaŋ
 雨に 濡れて 家に 来た

(h) 並列

naŋkwanni fibuini re:kuni
 南瓜に 冬瓜に 大根
 amanig kumanim manroŋ
 向うにも ここにも 沢山ある
 nakai, ŋkaiが出るであろうと思った部分で、
 女性の話者の場合、総てniまたはkatʃiしか現
 れなかった。

1-8, jukaŋ, juka:, ika:

(a) 比較の基準

taro:jukan dʒiro:ja rikijussa:
 太郎より 次郎は 出来るなあ
 taro:jukan dʒiro:garu rikijuj
 太郎より 次郎がぞ 出来る
 fiʃijukaŋ ijuja takahaassa:
 肉より 魚は 高いなあ
 kurijuka: ʔare: Φuruhaŋ
 これより あれは 古い
 Φujujukan natʃe: maʃi jassa:
 冬より 夏は まし であるよ
 Φujujuka: natʃigaru maʃi
 冬より 夏がぞ まし
 ko:juçiika: tʃukujuçe: maʃi
 買うのより 作るのは まし

(b) 否定の語句と呼応し、それ以外にな
 いことをいう

ja:juka: Φukane: uraŋ
 お前より 外には いない
 ʔarijuka: magisaʃe: uraŋ

あれより 大きいのは いない
 wanujukan rikijuçe: uraŋ
 私より 出来るのは いない

I-9, tu

(a) 相手・共同者

taro:tu ni:bitʃi tʃaŋ 太郎と 結婚 した
 dʒiro:tu otaŋ 次郎と 喧嘩した
 ruʃitu ndʒaŋ 友と 行った
 jato: naraŋ お前とは 出来ない

(b) 比較の対象

ŋkaʃitu ratig kawatoŋ
 昔と 大変 変わって
 tuʃijuitu junumoŋ ko:gu magatoŋ
 年寄と 同じ 腰 曲がっている
 uΦutʃunu warabitu ʔoti tʃanna:
 大人のくせに童と 喧嘩して 来たのか

(c) 並列

sa:tu:tu ma:sa: かまきりと 熊蟬
 na:bitu hagama 鍋と 釜
 Φu:nitu ka:gaʃa: nukutoŋ
 骨と 皮だけ 残っている
 fiʃitu ijuto: nu: maʃiga
 肉と 魚とは 何 ましか
 tumiti kamiçitu juru kamiçitu nu: maʃiga
 朝 食うのと 夜 食うのと 何 ましか

(d) 反復形について強調を表す

magi magi:tu 大 大と

(e) tu ʔu:raŋ で 〈~するやいなや〉
 の意。

mo:ki:çitu ʔuran sugu tʃikati ne:raŋ
 儲けるやいなや すぐ 使っ ない
 tʃinu kezjuʃito ʔu:ran sugu juŋgwaΦuŋ
 着物 替えるやいなや すぐ 汚す
 ʔare:çitu ʔu:ran sugu juŋgwaΦuŋ

洗うやいなや　すぐ　汚す

I-10, jara (並列)

ma:tfijara gadzimarujara mitog
松やら　ガジマルやら　生えている
ʔarijara　kurijara　muru　itfinahag
あれやら　これやら　総て　忙しい

II 係助詞

II-1, ga (疑問)

(a) 疑問語との呼応

(a)-1, 疑問語に直接つく場合
ma:ga <どこか>。nu:ga <何か>。taruga
<誰か>。ikutfiga <幾つか>。itfiga <いつか>

(a)-2, 疑問語の次に動詞・助詞などを介する場合

itfa tfoga どう　しているか
itfa tfiga どう　してか
itfa suga どう　するか
itfasa suga　いくら　するか
ma:nuga　どこのか

tfassabike: suga　いくらぐらい　するか

nu:ntfi warabi nake:Φuga

どうして　子供　泣かすか

ma:katfi itfuga　どこへ　行くか

fe:fig karin tfikan　nu: ʔijuga

二回　食っても　聞かない　何　言うか

(b) 陳述との呼応

tarugaga tfuraha araja:

誰かが　美しいかね

II-2, ru (強調)

(a) 係結. 活用語の -ru 形と呼応する。

dzi:ru　katfuru　字ぞ　書く

taro:ru　jate:ru　太郎ぞ　である

çisaru a:ru　寒さぞ　ある

çisaru aibi:ru　寒さぞ　あります

ja:garu tfjeru　お前がぞ　してある

kusanuru mito:ru　草のぞ　生えている

arigaru tfuraharu　あれがぞ　美しい

tfike:çiru jaru tijuçe: arag

使うのぞ　である　捨てるのは　あらぬ

sake: kumitfiru tsukujuru

酒は　米でぞ　作る

sataja udgitfiru tsukujuru

砂糖は　きびでぞ　作る

nu: tfin fimiru suru

何　しても　よい

(b) 陳述との呼応

kaggetiru unna　考えてぞ　いるか

kaggetiru ujabinna　考えてぞ　いますか

mmuru kwenna　いもぞ　食べているか

tfa:ru nure:tfunna　茶ぞ　飲んでいるか

ʔajibiru tfetfunna　遊んでぞ　いるか

II-3, ja (は)

(a)-1, 主題を表す

udze: ʔamahag　きびは　甘い

huro: magisag　背は　高い

huro: gumahag　背は　小さい

figutuja tare:ma uwatag

仕事は　すぐ　終わった

ʔare: tunaki　あれは　渡名喜

ʔari mma: so: itfo:ɟ

あの　馬は　しっかりしている

(a)-2, 対比的な文の中で両方の主題を表す

çiro: atfiha:çiga juro: çidzuruhaɟ

昼は　暑いが　夜は　涼しい

nabera:ja ma:haaçiga goja:ja ndzahag

糸瓜は おいしいが 苦瓜は 苦い

(b) 卑下する語について卑しめの意を表す

jana warabija atfira keti kunsā:
悪い 子供は なかなか 帰って 来んよ

(c) -juka: (ika:) ~ja mafi <~よりは~はよい>。-kutu~ja mafi <~だから~はまし>という構文で用いられ、後者がよいことを示す。

?inujuka: majaja mafi
犬より 猫は まし

kojuçiika: tfukuçuçe: mafi
買うのより 作るのは まし

çidzaja kusasa akutu waja mafi
山羊は 臭いから 豚は まし

次のような ja mafi <はよい> という構文でも前のものよりは良いことをいう。

kweçe: mafi 食うのは まし
nindzuçe: mafi 寝るのは まし

(d) 文末に疑問の意の助詞を伴って <~では> の意味を表す。

hai, taraja aranna
やあ 太郎は あらぬか

(e) 疑問語につく場合

nu:ja ja:ga muŋga

何は お前が ものか

maja arakatfigaja どこは 新垣かな

(f) 格助詞ga, nuにつく場合

ja:ga: narag お前がは 出来ない

?ariga: najug あれがは 出来る

?ariga: dzoi sanro:

あれがは 決して しないよ

?amino: Φurag 雨のは 降らない

inuno: kuitim majano: ku:rag

犬のは かんでも 猫のは かまない

真謝方言の融合現象は那覇方言などで融合の起きる次のような音声環境でも融合してもしなくても自由である。

kabi→kab $\begin{matrix} e: \\ | \\ i \end{matrix}$ ja 紙は

?u:bi→?u:b $\begin{matrix} e: \\ | \\ i \end{matrix}$ ja 帯は

nama→nama $\begin{matrix} : \\ | \\ ja \end{matrix}$ 今は

suba→suba $\begin{matrix} : \\ | \\ ja \end{matrix}$ 舌は

tfimu→tfim $\begin{matrix} o: \\ | \\ u \end{matrix}$ ja 肝は

Φuju→Φuj $\begin{matrix} o: \\ | \\ u \end{matrix}$ ja 冬は

長音の後などではkwa:ja <子は>, go:ja:ja <苦瓜は>, majaja <猫は>のように融合しない

jaはkatfjuçitfo: <書くのはさえ> のようにiになる傾向がある。kojuçiika: <買うのより> のika:がjuka:の弱まった形というのと似た現象であろう。

II-4, n, nte: <も>

(a) 事情の類似したことがらを暗示する

su:ja kinte: figutu ndzaj

父は 今日も 仕事 行った

su:ja kinte: figutu menso:tfaj

父は 今日も 仕事 いらっしやった

tufi tuti tfimburunu kinte: hagito:sa:

歳 取って 頭の 毛も 禿げているよ

tfimburunte: hagito:ŋ 頭も 禿げている

(b) 事情の類似した事物・事柄の提示

go:ja:nte: nabe:ra:nte: natonna
 苦瓜も 糸瓜も なっているか
 ʔndzi $\left\{ \begin{array}{l} n \\ nte: \end{array} \right.$ itʃana:ti $\left\{ \begin{array}{l} n \\ nte: \end{array} \right.$ ʃimiru suru
 行っても 行かなくても よい
 tʃimburu $\left\{ \begin{array}{l} n \\ nte: \end{array} \right.$ jari wata $\left\{ \begin{array}{l} n \\ nte: \end{array} \right.$ jari
 頭も 痛み 腹も 痛み

tʃa:nnaransa:
 どうも出来ない

takiΦurunte: utʃati ka:ginte: tʃurahag
 丈程も つりあって 容姿も 美しい

(c) 事情の類似したものを繰り返して強調する

kwati $\left\{ \begin{array}{l} p \\ nte: \end{array} \right.$ kwati $\left\{ \begin{array}{l} p \\ nte: \end{array} \right.$ tʃa: ja:haru
 ʔaru

食っても 食っても いつも ひもじい
 nu:nig kwini:n natʃug
 何にも かににも 泣く

(d) 極端な場合を提示する。(～さえも)

ほどの意

ja: $\left\{ \begin{array}{l} n \\ nte: \end{array} \right.$ nagaraΦunu ʔu:ami Φutag
 家も 流らす 大雨 降った

atʃihanu kadzi $\left\{ \begin{array}{l} n \\ nte: \end{array} \right.$ ne:rag ʔu:duri
 nato:g

暑くて 風も ない 大風なっている

mitʃi attʃo:ru tʃun kuruΦuha

道 歩いている人も 殴るよ

dʒini $\left\{ \begin{array}{l} n \\ nte: \end{array} \right.$ ne:rag 錢も ない

ʔatta:ninte: makijunna:

あれらにも 負けるか

tʃassa Φurito:tig ʔujaja wakairu suru

いくら 狂れていても 親は分かりぞする

wi:to:tig ja:ja wakairu suru

酔っていても 家は 分かりぞ する

(e) 疑問語に関係して全面肯定・全面否定を表す

ʔikusanu kuto: taruga jatin ʃittʃiru
 ʔu:ru

戦の 事は 誰が でも 知ってぞいる

karaΦuʃiruʒ je:ne: tʃassag ʔanro:

貸らすの なら いくらでも あるよ

ratig kame:taʃiga ma:nig urana:atag

随分 探したが どこにも いなかった

ja:nakaija tarug urag

家には 誰も いない

(f) 格助詞のga, nuについて全面否定などに係わる。

ja:gante: wakajunna お前がも 分かるか

kusanunte: kwa:ri:mi 草のも 食えるか

ha:nunte: jaminna 歯のも 痛いか

gante: <がも> に似た結合に ga jatig もあり

taruga jatig narag <誰がであっても出来ない> などと使われるが、<誰がも分からない> と大体同じ意味である。

II-5, tʃo: <さえ>

ある事象を普通でないこととして例示し、普通であることを暗示する。

ʔunagunutʃo: najunumunnu ʔukiganu

naranna:

女のさえ 出来るのに 男の出来ないか

ja:gatʃo: nainumunnu wagga naranna:

君がはさえ 出来るのに 私が 出来ないか

ja:nu dʒo:katʃitʃo: ndʒirag

家の 門にさえ 出ない

katʃuʃiitʃo: nenna:

書くのはさえ ないか

ʔittʃintʃo: nenna: 一斤さえ ないか

tukatʃo: ʔafiri iki

十日はさえ 遊んで 行け

wanu:tʃo: 私さえ

II-6, run (強調)

?urirun ndzukaçi:ne: re:dzi nainro:
 それこそ 動かすと 大事 なるぞ
 ijuçirun mirraba: je:dzi fijo:
 入るのこそ 見たら 合図 しなさいよ
 ja:ga itfirun fi:ne: naiçigaja:
 お前が 行きこそすれば 出来るがなあ

II-7, te: (〜としても)

o:tante: ja:ga: kanag
 喧嘩したとしても お前がは かなわん
 本助詞は II-4 の nte: 〈も〉 に関係あるか。

III 副助詞

III-1, gure: (動作の程度を示す)

?arikatfe: kuigure: arag
 あれには やるくらいは あらぬ

III-2, gatfa: (ばかり)

(a) 事象が頻繁であること。〈しょっちゅう。いつも〉のような意味。

tfigkamigatfa: ndgito:sa:
 根太ばかり 出ているよ
 çittfi: tfa:gatfa: nuro:g
 しょっちゅう 茶ばかり 飲んでいる
 ?afibigatfa: fi:ne: Φura: najunro:
 遊びばかり すると 馬鹿 なるぞ
 ru:nu muggatfa: itti wa: muno:
 自分の 物ばかり 入れて 私 ものは
 ?irirag
 入れない
 natfi natagutu go:ja:tu nabe:ra:gatfa:
 夏 なったから 苦瓜と 糸瓜ばかり
 kweg

食べる

tamme:ja sakigatfa: usagato:g
 じいさんは 酒ばかり 召しあがっている
 (b) 当該のことに限定する。〈〜だけ〉
 のような意味。

jana:gatfa: nukuto:g
 悪いのだけ 残っている
 kumagatfa: arag jatta:nte:na:
 ここだけ ではなく お前らもか
 ari tfuigatfa: nukutfi ja:nu ban fimi
 junna:
 あれ 一人だけ 残して 家の 番 させる
 か

go:ja:ja natonna: go:ja:gatfa: aran
 苦瓜は なっているか、苦瓜だけではない

tjimburunte: nabe:ra:nte: nato:g
 チブルも 糸瓜も なっている

Φu:nigatfa: nukuto:g
 骨ばかり 残っている

kusagatfa: mitog 草ばかり 生えている
 (c) 数量を表す語について、大体の程度
 を表す。

godzu:gatfa: naitasa
 五十くらい なりよったよ

III-3, bike:

数量を表す語について、大体の分量・程度
 を表す。

sambattfibike: kakainu wa: karatassa:
 三百斤くらい かかる 豚 飼ったよ
 tufe: godzu:bike: naitasa
 歳は 五十くらい なりよったよ
 juttaibike: jataj 四人くらい であった

III-4, mari

(a) 動作や事柄の到達点を表す

çi:dʒi:ja godʒimari hataratʃetʃuŋ

平常は 五時まで 働いている

ʔatʃa:mari mattʃo:riɓa

明日まで 待っておれ

ʔitʃimari:ŋ mattʃo:tiŋ ku:ha

いつまでも 待っていても 来ないよ

(b) 極端な場合をあげて強調し、他の場合を言外に暗示する。

mitʃi attʃo:ru tʃumari kuruΦuha

道 歩く 人まで 殴るよ

(c) 程度の極端な場合

uttunimari nake:hariŋ

弟にまで 泣かされる

ikusa ju:ja nu:mari:ŋ karo:ha

戦 世は 何までも 食べるよ

(d) ~kara~mariという範囲を示す構文の場合

kumakara ʔamamari ʔitʃuŋ

ここから 向うまで 行く

tumitikara jusanrimari hataratʃuŋ

朝から 晩まで 働く

次の nu:kara nu:mari:ŋ は〈ことごとく〉のような意味

nu:kara nu:mari:ŋ muttʃi itʃuha

何から 何までも 持って 行くよ

(e) ~ba (kara:) ~mariという構文の場合。慣用句的である。

kakiba katʃarumari jaha

書けば 書いたままで であるよ

ʔitʃibakara: ʔndʒarumari jaha

行けばからは 行ったままで であるよ

Ⅲ-5, nna:, na: 〈ずつ〉

(a) 数や分量を表す語について、等量の

事物が配分されることを示す

ʔikutʃinna: ʔatajuŋa mitʃinna: ʔatajuŋ

幾つずつ 当たるか 三つずつ 当たる

kamibusaaraba: tʃassana: jatiŋ kamiba

食べたいなら 幾らずつ でも 食べろ

mitʃibikenna:ja ʔatajuŋ

三つばかりずつは 当たる

(b) ある動作が等量の動作として反復されることを表す。

ʔo:kunna: katami:ne: utajuŋ

沢山ずつ かつぐと 疲れる

ku:tenna: muttʃi ʔitʃiba

少しずつ 持って 行け

ku:tenna: kaggeti turaçiba

少しずつ 考えて くれ

çittʃi:na:ja hataratʃi ju:sag

一日中ずつは 働き きれない

Ⅲ-6, (?) atai

(a) 例示されたことについて、その動作や状態の程度を示す。

taro:ataija taruga:ŋ fi:ju:sag

太郎くらいは 誰もが 出来ない

taro:ʔatai kane:nu tʃo: urag

太郎くらい 出来る 人は いない

(b) おおよその分量を示す

ʔa:to: tʃanuatai nuku:to:gaja:

後は どのくらい 残っているかな

IV, 終助詞

IV-1, i 〈尋問〉

katʃiju:surtii 書ききれよったか

ti:be:sa atii 手早かったか

IV-2, mi 〈疑問〉

kusanunte: kwa:ri:mi 草のも 食えるか

IV-3, na, na:

(a) 疑問

ja:ga ?aihe: Φ unto:na

お前が 言うのは 本当か

?antfi takaha:çi ko:junu tşu: utina:

あんなに 高いの 買う 人 いたか

tat:ina 召しあがりましたか

dzi:ru katfet:funna 字ぞ 書いているか

ja:garu tjaru aranna

お前がぞ やった あらぬか

çi:sa:binna 寒うございますか

mmu kwenna いも 食べるか

tja: tşumakai numatfi kuranna:

茶 一杯 飲まして くないか

nuggara kamuçi nanna

何か 食うの ないか

(b) 疑問反語

fittfo:nu tşunu unu Φ u:dzi: kutu ?ijun
na

知っている 人の そのような こと 言うか

(c) 勧誘

tuka:tfo: ?afiri itfanna:

十日はさえ 遊んで 行かんか

IV-4, gaja, gaja: (軽い疑問)

taro: tşurahagaja: 誰は 美しいかなあ

?utfamo: ma:nato:gaja

宇根は どこ なっているか

?utfamo: ma: jagaja:

宇根は どこ であるかな

?utfamo: ma: nato:bi:gaja:

宇根は どこ なっておりますか

?a:to: tşappi nuku:to:gaja:

後は いくら 残っているかね

IV-5, sa, sa:, ssa:, (よ。軽い主張)

ju:tfiga mi:ja a:nu hadzija:sa

四つが 一杯は ある はずだよ

?amija Φ uransa: 雨は 降らぬよ

ka:ge: tşurahan taki Φ urunte: suruti

容姿は 美しい 丈程も そろって

dşo:to: jassa:

上等 であるよ

sun naisa: 損 なるよ

subanu jamisa: 舌の 痛いよ

kunu warabinu munu kwe:çe: çirumaha

この 子供の もの 食うのは 不思議

ruaru ?u Φ uwata: jassa:

だ 大きい であるよ

本助詞は大体男性の話者から観察した。次のIV-6のhaは女性のみから観察した。haの方が本来のものかもしれない。

IV-6, ha (よ。軽い主張)

ju:tfine: a:ha 雪のようであるよ

?im maja: tşikanato:ha

犬 猫 飼っているよ

?ari ja: kuri ja: miguti ?aşire:tşuha

あの 家 この 家 廻って 遊んでいるよ

jama miguti ?atşet:şuha

山 廻って 歩いているよ

?anra:gi:ja jatşifinre: karri ne:ha

てんぷらは あげ次第 食って ないよ

?itşimari:g mattfo:tiş ku:ha

いつまでも 待っていても 来ないよ

IV-7, he: (よ。念押し)

?ariga na:kani ?ittfo:he:

あれが 中に 入っているよ

IV-8, ja: 〈軽い感嘆〉

kinu:nu ne:nu ʔuturuha atanu kuto:ja:
 昨日の 地震の 恐ろしかった ことよ
 taruga tfuraha araja: 誰が 美しいかね
 tinto:te: magisa asaja: 天も 大きいね

IV-9, jo: 〈よ。念押し〉

ci:figwatfi so:gwatfe: ja:katfi ku:jo:
 盆 正月は 家に 来いよ
 ja:ga kwa:ja ju: tudzikirijo:
 お前が 子は よく 注意しなさいよ

IV-10, ro: 〈主張〉

fitfibi:nu tfo: juragha:nitfe: naranro:
 節日の 人は ゆだんしては いけないぞ
 ma:nig nenu kuturo:
 どこにも ない ことぞ
 ʔariga tʃetʃuhe: re:dzina kuturo:
 あれが する事は 大変な ことぞ
 ugagguto: antfe: tu:ranro:
 拝事は そうしては 通らないぞ
 wante: sunro: 私も するぞ

IV-11, tʃi 〈と。引用〉

itʃuntʃantʃai ikantʃantʃaitʃi ajutaŋ
 行くとか 行かんとかと 言っていた
 このtʃiは他の形と結合してtʃitʃi, tʃantʃi
 という形を作る。これらは「と行って」に由
 来する形のものである。意味も大体tʃiと同
 じだから同様に扱う

IV-12, tʃitʃi 〈と。引用〉

warabinu ʔuΦutʃunu kutuba tʃitʃuntʃitʃi

sug

子供が 大人の 言葉 聞こうと する

IV-13, tʃantʃi 〈と。とて〉

o:takututʃantʃi wanu mikkwahanna:
 喧嘩したからと 私を にくいか
 nu:jag kwijantʃantʃi ajutaŋ
 なんの かのと 言っていた
 tunatʃikatʃi jatiŋ ʔagunikatʃi jatiŋ
 渡名喜へであっても 粟国へであっても
 itʃuntʃantʃi ajutaŋ
 行くとか 言っていた

本助詞に似たものにIV-11の文例にあるよ
 うなtʃantʃaiという形もある。この形も含め
 て本助詞には副助詞的働きもあるように思わ
 れる。

IV-14, re:ru 〈だ。強調〉

harukati mmu Φuigare:ru
 畑に いも 堀りにだ
 ʔare: inagure:ru あれは 女だ
 wa: munre:ru 我 ものだ

re:ruはru jaru〈ぞである〉に起因する。
 これは終助詞になりかけているが、これを認
 めるとru jannaに起因するrenna, ru
 jagajaに起因するre:gaja: も一語かという問
 題も生ずる。今は便宜的に両者もあげておく。

IV-15, renna 〈疑問〉

tai:tirenna 召しあがりましたか
 ʔitʃuɕirenna ʔitʃa:ɕirenna ʔitʃuraba:
 ha:ku ʔitʃi
 行くのか 行かんのか 行くなら 早く
 行け

IV-16, re:gaja: 〈かな。自問〉

amanure:gaja: 向うのかな

wa:munre:gaja: 私の物かな

ʔare: tunatfire:gaja: あれは 渡名喜かな

ji: 〈強調〉

sannannu ji: 〈三男のですよ〉のji:は終助詞のようであるが nakatfinunrunfinu ji: 〈仲地ノ口殿内の所〉のji:は体言のようである。

V 接続助詞

V-1, ga 〈そして、にもかかわらず〉

takitaka:ga ʔiru firu:

背が高くて 色 白い

çi:sa maka:ga ʔatfisa maka:

寒がりだが 暑がり

V-2, figa

(a)逆接

ha:ku ni:gisa: ja:figa ʔatfiran ni:rag

早く 煮えそうだが なかなか 煮えない

(b)順接

tja:gwa: ittfo:figa numanna:

茶 入っているが 飲まないか

(c)文末用法

hatatfinu tutfinu kwa:ja:figa

二十歳の 時の 子だが

V-3, çiga

(a)逆接

hana: satfi tfu:çiga ʔute: si:fi:tfi

花は 咲いて 来るが 折ったりして

mbuha:çiga muttfi tʃag

重いけれども 持って 来た

kamibusu ataçiga kamana:tag

食べたかったが 食べなかった

kwe:busu ataçiga kwa:natag

食いたかったが 食わなかった

(b)順接

ja:ha: ja:haçiga tfimburunu jari

空腹は 空腹だし 頭の 痛んで

tʃa:n naransa:

どうも 出来ないよ

kumakatfinte: tfo:taçiga jatta:katfinte:

ここへも 来ていたが 君らへも

tʃortina

来ていたか

(c)文末用法

saki nu:di:nu ʔato: ʔo:juçiga

酒 飯んでの 後は 喧嘩するが

hatatfinu tutfinu kwa:ru je:çiga

二十歳の ときの 子ぞ であるが

V-4, ne:

(a)前の条件が整うと常に後の条件が整う。
~すると。

ti:rakara ʔatfji:ne: tfimburu jaminro:

太陽から 歩くと 頭 痛いぞ

ja:ga itfji:ne: najuçigaja:

お前が 行くと 出来るがなあ

saki numi:ne: jama tfirijunro:

酒 飲むと 大変なことになるぞ

(b)仮定条件

karaΦuçiruj je:ne: tʃassag ʔanro:

貸らすのこそ ならば いくらでも あるよ

turaΦuçiruj je:ne: nairu suru, nra

取らすのこそ ならば 出来ぞする, どれ

ki:ni nubujuçiruj je:ne: nairu suru

木に 登るのこそ ならば 出来ぞ する

taro: kuruçi:ne: tara: gattin sanro:
 太郎 殴ると ただは おかぬぞ
 natʃinu tʃo: ʔamiraine: kuraharaj
 夏の 人は 浴みないと 暮らせない

V-5, munnu 〈のに。確定の逆接条件〉
 ʔunagunutʃo: najunumunnu ʔukiganu
 naranna:

女さえ 出来るのに 男の 出来ないか
 tufijui nato:rumunnu nu: jaku tatʃuga
 年寄っているのに 何 役 立つか

V-6, ba:, ba 〈もし~ならば〉
 suraba ha:ku ʃi するなら 早く せ
 よ

kamibusa araba: tʃassana: jatiŋ ka
 miba

食べたければ いくらずつでも 食べる
 ʔitʃuraba: ha:ku ʔitʃi

行くなら 早く 行け

ijuçirum miraba: je:dʒi ʃijo:

入るのこそ 見たら 合図 せよ

sa:tʃi na:ti itʃiba 〈先なって行け〉の
 na:tiのti は「て」に当たるが、これは tʃitʃi 〈聞
 いて〉 ndʒi 〈行って〉 のようになるから接続
 助詞とするには適当でない。

V-7, kutu, gutu

(a)原因・理由

haine: utajukutu jo:inna: akka

走ると 疲れるから ゆっくり 歩こう

tʃa:gatʃa: araj mununte: ni:to:kutu

茶だけではない ものも 煮えているから

ka:ri itʃi

食べて 行け

ja:ga ʔammari itʃiursaj , ʔama:
 お前が 向うまで 行ききれない、向うは
 ma: jakutu tu:hanro:
 どこ だから 遠いぞ

natʃi natagutu go:ja:tu nabe:ragatʃa:
 夏 なったから 苦瓜と 糸瓜ばかり 食
 karo:ŋ

べている

(b)逆接の確定条件

haisu:bu tʃakutu tusujuini makitaŋ
 走り勝負したから 年寄に 負けた

(c)順接

wante: itʃugutu runte: itʃunna

私も 行くから お前も 行くか

kutu, gutu は自由変異のようなものと思
 われる。

助動詞

以下に真謝方言の助動詞の種類と活用の具
 体例をあげる。

I, 助動詞の種類

(1) Φuŋ 〈使役〉

dʒi: kakaΦuŋ 字 書かす

wanu mataΦuŋ 我 待たす

ʔari tataΦuŋ あれ 立たす

(2)-riŋ 〈受身〉

tʃuni tanumarin 人に 頼まれる

tʃuni tafikirarin 人に 助けられる

tʃu:kara: ʔukirarin 今日からは 起きら
 れる

(3)-busaŋ 〈願望〉

dʒi: katʃibusan 字 書きたい

tʃa: numibusan 茶 飲みたい

ha:ku nindʒibusan 早く寝たい

?i:busan 言いたい

?itʃibusan 行きたい

(4)-esaj <容易>

dʒi: katʃe:san 字書きやすい

nunu ?uje:san 布織りやすい

ha:ʃi tʃike:san 箸使いやすい

katʃe:san 書きやすい

(5)-gurisaj <困難>

dʒi: katʃigurisan 字書きにくい

?amakatʃi itʃigurisan 向うへ行きにくい

wi:dʒigurisan 泳ぎにくい

(6)-qisaj <～しそう>

dʒi: katʃiqisan 字書きそう

mitʃi wataiqisan 道渡りそう

(7)-ju:suj <可能>

dʒi: katʃju:suj 字書ききれる

(8)-kantotaʒ <頻繁であった>

tatʃikantotaʒ 立ちかぶっていた(沢山人が立っていた)

(9)-kwe:wa <～しやがれ>

?itʃikwe:wa 行きやがれ

(10)-inʃen, unʃen <～しなざる>

katʃo:inʃen 書いておられる

?attʃe:inʃen 歩いておられる

kange:inʃen 考えておられる

tage:tʃiunʃen 耕しておられる

(11)-menʃen <おられる>

kange:timenʃen 考えておられる

(12)-misen <おられる>

?attʃimisen 歩いておられる

(13)-bi:ŋ <～します>

?ijabi:ŋ 言います

?itʃabi:ŋ 行きます

(14)-be:saj <～し早い>

ʃi:be:saj 為ばやい

ti:be:saj 手ばやい

katʃibe:saj 書きばやい

(15)-ŋ <否定>

na: san もうしない

na: kuŋ もう来ない

dʒi: kakaŋ 書かない

II, 活用の具体例

(1) kakaΦuŋ <書かす>

dʒi: kakaha 字書かそう

kakahano:ʃiba 書かさんようにせよ

kakasan 書かさん

kakaçiba 書かせば

kakaçiba 書かせよ

kakaçe: 書かせよ

kakaçi:ne: maʃijatarumuŋ

書かせばよかったのに

kakaçibusaj 書かせたい

kakaΦuŋ 書かす

dʒi:ru kakaΦuru 字ぞ書かす

dʒi:ga kakaΦura 字が書かすら

kakaΦura: kakaçiba 書かすなら
 書かせ
 kakaΦuha 書かすよ
 kakatji 書かして
 kartji 書かして
 kakatşaj 書かした
 kakatşaru tşu: 書かした 人
 dgi:ru kakatşaru 字ぞ 書かした
 dgi:ga kakatşara 字が 書かしたら
 kakatşaraba: mafi jatarumuğ
 書かしたなら よかったのに
 kakatşaha 書かしたよ
 kakatşe:ğ 書かしてある
 kakatşe:ru tşu: 書かしてある 人
 kartjia:ru dgi: " 字
 dgi:ru kakatşe:ru 字ぞ 書かしてある
 dgi:ga kakatşerra 字が 書かしてある
 ら
 kakatfe:raba: 書かしてあるならば
 kakatfiaraba: "
 kakatşe:ha 書かしてあるよ
 kakatfetina: 書かしてあったか
 kakatfiatina: "
 kartfiatağ 書かしてあった
 kartfiataru dgi 書かしてあった字
 dgi:ru kartfiataru 字ぞ 書かしてあっ
 た
 dgi:ga kartfiatara 字が 書かしてあっ
 たら
 kartfiataraba: 書かしてあったならば
 kartfiataha 書かしてあったよ
 kartfiateğ 書かしてある
 kartfiate:ru dgi: 書かしてある字
 dgi:ru kartfiate:ru 字ぞ 書かしてある
 dgi:ga kartfiate:ra 字ぞ 書かしてある
 ら
 kartfiate:raba: 書かしてあったならば
 kartfiate:ha 書かしてあったよ
 katşet:şuğ 書かしている
 katşet:şunna 書かしているか
 katşet:şuru dgi: 書かしている 字
 dgi:ru katşet:şuru 字ぞ 書かしている
 dgi:ga katşet:şura 字が 書かしている
 ら
 katşet:şuraba: kakatfo:kiba
 書かしているなら 書かしておけ
 katşet:şuha 書かしているよ
 kakatşe:tşutağ 書かしていた
 kakatşe:tşutaru dgi: 書かしていた 字
 kartfet:futaru dgi: 書かしていた 字
 dgi:ru kakatşe:tşutaru 字ぞ 書かして
 いた
 dgi:ga kakatşe:tşutara 字が 書かして
 いたら
 kakatşe:tşutaraba: kakatfiutfetarumu
 n ja:
 書かしていたなら 書かしていたのにな
 kakatşe:tjutaha 書かしていたよ
 kakatfet:futeğ 書かしていただろう
 kakatfet:futeru tşu: 書かしていただろ
 う 人
 dgi:ru kakatfet:fute:ru 字ぞ 書かして
 いただろう
 dgi:ga kakatfet:fute:ra 字が 書かして
 いただろうら
 kakatfet:fute:raba: 書かしていたなら
 kakatfet:fute:ha 書かしていただろうよ
 kakahabiğ 書かせます
 次のものは連用形の kakatji, kartji のとこ
 ろで扱ってもよいが、「居り」「置く」の現わ

れるものを一個所にまとめておく。
 kat:fiataŋ, kat:fiateŋ あたりの活用と同次元
 のものであろう。

kakat:fiut:taha 書かしていたよ
 kakat:fiut:fetaŋ 書かしておいてあった
 (止)

kakat:fiut:feta:ru 書かしておいてあった
 (体)

kakat:fiut:feta:ra:ba 書かしておいてあっ
 たら

kat:fiut:fetaŋ 書かしておいてあった (止)
 kat:fiut:feta:ru 書かしておいてあった
 (体)

kat:fiut:feta:taha 書かしておいてあったよ
 dʒi:ru kat:fiut:feta:ru

字ぞ 書かしておいてあった

dʒi:ga kat:fiut:feta:ra

字が 書かしておいてあったら

kat:fiut:feta:ra:ba 書かしておいてあったら

kat:fiut:feta:te:ha 書かしておいてあったよ

(2) tarumarig 〈頼まれる〉

tarumaranro: 頼まれなぞ

tarumarig 頼まれる

tarumattiutag 頼まれていた

tarumattag 頼まれた

tarumatteŋ 頼まれている

tarumattoŋ 頼まれている

tarumatto:taŋ 頼まれていた

tarumato:biŋ 頼まれています

(3) numibusag 〈飲みたい〉

mumibusatʃo:taŋ 飲みたそうにしていた

numibufikuneg 飲みたくない

numibusaaru tʃu 飲みたい 人

tʃa:ru numibusaa:ru 茶ぞ 飲みたい

tʃa:ga numibusaa:ra 茶が 飲みたいら

numibusaaraba: numiba

飲みたいなら 飲め

numibusaa:taŋ 飲みたかった

numibusaa:teŋ 飲みたかったら

numibusaa:teru hadziro:

飲みたかった はずだよ

(4) ?uje:sag 〈織りやすい〉

?uje:ʃikuneg 織りやしくない

kumidzima tʃumugigaru ?uje:saru

久米島袖がぞ 織りやすい

kumidzima tʃumugigaga ?uje:sara

久米島袖がが 織りやすいだろうか

?uje:saaraba: ?uriba

織りやすいなら 織れ

?uje:saataŋ 織りやすかった

?uje:saataru hadzi 織りやすかった は
 ず

?uje:saate:ŋ 織りやすかったら

(5) kat:figurisag 〈書きにくい〉

kat:figurikuneg 書きにくい

kat:figurisaataŋ 書きにくかった

kat:figurisaateŋ 書きにくかったら

(6) kat:figisag 〈書きそう〉

dzi: kat:figisaru tʃu 字 書きそうな 人

kat:figisaaru dzi: 書きそうな 字

kat:figisaaraba: kakiba

書きやすいなら 書け

(7) kat:fiju:sug 〈可能〉

kat:fiju:sag 書ききれない

katfiju:saanu tʃu 書ききれない 人
 katfiju:sug 書ききれる
 ?arigaru katfiju:suru
 あれがぞ 書ききれる
 ta:gaga katfiju:sura
 誰かが 書ききれるだろうか
 katfiju:su:ra(a)ba: kakiba
 書ききれるならば 書け
 katfiju:susa 書ききれるよ
 katfiju:su:tii 書ききれよった
 katfiju:su:tag 書ききれよった
 katfiju:su:teŋ 書ききれよっただろう

(8) tatfikantotag <沢山立っていた>

(9) *-kwaig <～しやがる>

?itfikwairu tʃu 行きやがる 人
 ?itfikwari 行きやがれ
 ?itfikwajuha 行きやがるよ
 ?itfikwajuti: 行きやがりよったか
 ?itfikwajutag 行きやがりよった
 ?itfikwe:wa 行きやがれ
 ?itfikwe:ha 行きやがるよ
 ?itfikwerti: 行きやがりよったか
 ?itfikwertag 行きやがりよった

(10) inʃeŋ, unʃeŋ <～しなざる>

両者は補いあう関係か。

katfe:uinso:raŋ 書いておられない
 ?aritfinsotʃo:biŋ 歩いておられます

(11) kartfimenʃeŋ <書いておられる>

katfe:menso:raŋ 書いてはおられない
 ?attfe:menso:raŋ 歩いてはおられない
 ?aritfe:menfe:ju:sag

歩いてはいらっしゃれない
 ?aritfimenso:riba 歩いていらっしゃい
 kartfimenʃeŋ 書いていらっしゃる
 kartfimenʃe:ru hadʒi 書いておられる
 はず

?attfimenʃe:ru tʃu 歩いておられる 人
 ?anu tʃugaru ?attfimenʃe:ru
 あの 人がぞ 歩いておられる
 ,?anu tʃugaga ?attfimenʃe:ra
 あの 人がが 歩いておられるのだろうか
 ?attfimenfe:ra:ba: ?aritfimenso:riba
 歩いて来られるなら 歩いて来られよ
 ?attfimenfe:ha 歩いていらっしゃるよ
 ?attfimenfe:tina: 歩いておられたか
 ?attfimenfe:tag 歩いておられた
 kartfimenʃe:tag 書いておられた
 ?attfimenfe:teŋ 歩いておられるだろう
 ?u:timense:te:ru hadʒi
 織っておられた はず
 figutu menso:tʃaŋ 仕事 いらっしゃった

以上、詞としてのものも辞的なものも含んでいるが、活用を同じくするから一緒に扱っておく。

(12) ?attfimiseg <歩いておられる>

活用はあると思うが(11)の menʃeŋ にひかれてしまって現われにくい。

(13) ?itfabi:ŋ <行きます>

?ndʒi tʃa:bira 行って 来ましょう
 ja:katʃi ?itfabirag 家に 行きません
 ja:katʃi ?itfabiranumug
 家に 行きませんか
 ?itfabi:ŋ 行きます

ja:katfiru ?itfabi:ru 家にぞ 行きます
 ma:katfija ?itfabi:ra
 どこへが いらっしゃるのだろうか
 ?itfabiraba: menso:ri
 いらっしゃるなら いらっしゃい
 ?itfabi:ti: いらっしゃいましたか
 ?itfabi:tag いらっしゃいました

(14) ti:besag (手早い)

ti:berko:neg 手早くない
 ti:besag 手早い
 ti:besa:ru tʂu 手早い 人
 wanu:garu ti:besa:ru 私がぞ 手早い
 tarugaga ti:besa:ra 誰かが 手早いだ
 ろうか
 ti:besaaraba: fimiriba
 手早いならば させる
 ti:besaaha 手早いね
 ti:besaatii 手早かったか
 ti:besaatag 手早かった
 ti:besaaten ja: 手早かっただろうね
 ti:besanu 手早くて (理由形)

(15) kakag (書かぬ)

kakanu: tʂu: 書かぬ 人
 kakanaaraba: kakuna 書かないなら 書
 くな
 kakag 書かぬ
 kakansa 書かないよ
 kakanaati: 書かなかったか
 kakanaatag 書かなかった
 kakanaateg 書かなかっただろう

 付録
 te:ba 召しあがれ

kamug (食べる) は本島から来た言葉。元
 は kweg である。

?usagajug めしあがる
 munu kwe: 物 食べろ (昔)
 munu ka:mi 〃 (今)
 munu usagari 物 召し上がれ (今)
 〃 miso:ri 〃
 〃 te: 〃
 〃 te:ba 〃 } (昔)

	おじいさん	おばあさん
士 族	tamme:	mme:
平 民	Φu:	ha:

	お父さん	お母さん
士 族	su:	?amma:
平 民	?attja:	?amma:

juje: 大々的に行う十六日の行事

niwa 池や築山のある庭

ma: 物を干したりする庭

二人称代名詞の待遇関係

ja: < jaru: < ?undzu

お前 貴方 貴方様

(喧嘩する) を今は o:jug と言うが、昔は

jo:jug と言った。

畑には haru, hataki, atai の三種がある。

haru は屋敷外の砂糖きびなどが植えられて
 いる所。屋敷内の野菜などを植える所は
 hataki とか atai という。

ko:hag (茶が) 濃い

çissag 〃 うすい

tijug 捨てる

dza:çe:sug 困ったことになる

amajug 騒騒しくする

?amahag 甘い

?ahasag あわい

ja:hag ひもじい

?utʃamu 〈字根〉。dʒa:mu 〈比嘉〉。jararo: 〈謝名堂〉。ro: 〈堂〉。ha:dʒo: 〈比屋定〉

?o:hasuŋ おんぶする

sunui 〈もずく〉, ?asa 〈あおさ〉

gai 〈蟹〉, ?ibigai 〈いせえび〉

tʃinu 〈着物〉, hasami 〈鋏〉; tig 〈天〉

dʒini 〈銭〉, wanu 〈私〉

tʃutu 〈一年〉

Φutʃukui 〈ふろしき〉

たんに kamuna 〈食うな〉 というより kamano:iʃiba といった方が丁寧な言い方である。itʃano:iʃiba も 〈行かないようにしなさい〉 くらいの意と思われる。

?antʃetʃutaŋ 話していた

ha:ku ku: 早く 来い

ha:ku ukiri 早く 起きろ

?itʃuraba: ?itʃiba 行くなら 行け

?ari kuri itʃinahag あれ これ 忙しい

ninʃeta: surito:ti mo:ihani tʃe:tʃuŋ

青年達 揃っていて 踊っている

ʃi:buʃiku ne:ra:ʒe: sano:i ʃi

やりたく なければ やりなさんな

?itʃibakara: ?ndʒarumari

行けばからは 行ったまで